

# 令和6年度 4月 訓示

本庁・船泊支所

令和6年4月1日

礼文町長 小野 徹

「積小為大(せきしょういだい)」(二宮金次郎)

「小さいことが積み重なって大きなことになる

大きなことを成し遂げようと思うなら

小さなことをおろそかにしてはいけない。」

日々努力を続けてほしい…

努力して自分を鼓舞することで、努力が習慣になり、

習慣が継続になり、継続が力になっていくのです。

「千里の道も一歩から」のように、小さな努力を

積み重ねることが大きな成果につながっていきます。

皆さん、おはようございます。 いよいよ令和 6 年度が始まりました。 初めに、新採用の皆さんにお話をしたいと思います。 さきほど、新規採用職員を代表して「成田百伽<sup>ももか</sup>さん」から宣誓をしていただきました。

社会人として初めてのスタートとなる方、あるいは、既に社会人となっている方、いずれにいたしましても私たち礼文町役場の職員となられ、私たちの仲間となられましたことに心からお祝いと歓迎を申し上げます。

今日から皆さんは、礼文町の町民皆さんの暮らしを守り、まちをつくり、地域を支える、礼文町の職員になったのでございます。 町全体を見渡し、わが町の課題を解決するために、自分なら何ができるか、どうしたら町の人たちを笑顔にできるか、また、礼文町の若者が未来に明るい希望の持てるまちづくりに向けて若い皆さんの力を発揮していただきますよう期待しているところでございます。 よく「一つの仕事に通じれば人生万事に応用できる。」と云われます。

人生という「畑」で、経験という「種」をいかに実らせるか、それは、時間を友にするか、敵にするかと云う事です。

時間は、経験を養い、知識を育みます。時間は皆さんの友となりますが、敵にもなるのでございます。それは、時間を上手に使ったか、むだに浪費してしまったかによって、時の明暗が分かれてしまうからでございます。 実際的な知識を身につけ、いろいろな知恵を学ぶには、社会の荒波にもまれて、自分のやらなければならないこと知り、仕事の厳しさを知り、忍耐力・根気そして勤勉さを養い、人格を磨きます。

だから、若い「情熱の土」には、いろいろな種を蒔いておくと云われるのです。青春は人生の春であります。若い寛容な心に種を蒔かなければ、夏になっても花は開かず、秋の収穫もおぼつかなくなります。

私は、役場の仕事と云いますか、皆さんの仕事ほど町民の皆さんと直に触れ合う中で、思ったこと、やりたかったことが実現できる、こんな面白いやりがいのある仕事はないと思っています。 信念を貫き、忍耐強く誠実に生きる道を歩んでいただきたいのです。

皆さんには、一生の誇りある仕事に仕上げていただきたい!  
心から、そう、願っています

次は「地域おこし協力隊」の皆さんにお話をいたします。

ようこそ、礼文島においでをいただきました。初めての方、2年目となる方もいらっしゃると思いますが、協力隊の皆さんを心から歓迎いたします。皆さんにも、まず、先ほど新採用の職員にしたと同じことを申し上げます。人生という「畑」で経験という「種」をいかに実らせるか、このことに力を注いでいただきたいと思います。ただ、皆さんは、地域活動を行いながら、礼文町への定住を図るためにおいでになったのでありますが、今、礼文町では、職員が不足している状況にありまして、本旨ではありませんが、皆さんの地域活動よりも、役場の仕事を行っていただく場合が多いと感ずることがあるかもしれません。そして、なかなか地域活動が思うように進まないこともあろうかと思えます。でも、これから3年間あるいは2年間の中で、皆さんが礼文島への定住をめざす活動が活発にできますように、私どもも、しっかりとサポートしてまいりますので、不安なこと、心配なことなど職場の仲間に話しかけてください。そして、安心して「地域おこし協力隊」として活躍していただきますよう、期待をし、また、お願いを申し上げる次第でございます。

では、ここからは全ての職員に申し上げます。 今回の異動で、それぞれ昇任昇格された皆さん おめでとう!

心からお祝いを申し上げます。 また、新しい部署に異動された皆さんもスムーズな事務の引継ぎを行って、速やかに新たな仕事に慣れていただくようお願い致します。

いよいよ今日から令和6年度。 苦しめられた新型コロナウイルス感染症は何とか克服できましたが、社会経済環境の変化や人口減少、少子高齢化の進行、頻発する自然災害への防災・減災の取り組みなどは依然として待ったなしの状況であり、わが町の行政課題も山積しています。

また、依然として、今、役場は職員が足りない厳しい状況にあります。

新採用や中途退職する職員の補充に努めてきましたが、なかなか事務職員の採用が進まない状況でありまして一部の課長や主幹の皆さんには係長の兼務発令など、大変なご苦勞をおかけしていることを深くお詫び申し上げます。

でも、こんな時でも、仕事は切れ目なく、進めなければなりません。 ひとつは「礼文町まちづくり総合計画」の見直しです。

「第6次礼文町まちづくり総合計画」は令和2年から10年間の計画であります。今年度までが前期計画と位置付けられておりました。令和7年度から始まる後期の計画を令和6年度に策定することになっています。

また、同じ期間の「第3期礼文町まち・ひと・しごと創生総合戦略」も並行して策定しなければなりません。4年間にわたって私たちは、コロナで苦しんできましたが、大きく傷んだ島の社会経済はまだ回復途上にありますので、町民の皆さんの生活の安定や社会経済の再生に、しっかりと取り組んでいくことが必要です。そうした中で、人口減少、人手不足、デジタル、脱炭素、医療、健康づくり、教育、そして危機管理など様々な環境変化をしっかりと受け止め変化の中で将来の礼文町をさらに伸ばしていく道筋をつけていかなければなりません。

わが町の課題を解決しながら、明るく元気な礼文づくりのために、引き続き、町民の皆さんと行政が一体となったまちづくりを進めることが必要でありますので、職員の皆さんには、少ない職員ではありますが、スクラムを組んで計画づくりを進めていただきたいと思いますようお願い申し上げます。

もうひとつは、友好交流町、沖縄与那国町との交流であります。令和元年11月30日に日本最北端の「礼文町」と日本最西端の「与那国町」が相互理解を深め、文化・教育・芸術・経済等幅広い分野で交流することを目的に友好交流の調印をしました。

これまでコロナ禍で交流ができませんでしたが、昨年5月にコロナが5類に移行したことにより、昨年8月に与那国町長さん議長さん以下12名の議員さんが礼文島においでになりました。

また昨年10月には本町の議会議員さんが、全員で、与那国町を訪問したことから交流が再開され、今年は、香深、船泊の中学生が与那国町を訪問して交流を図ることとしています。

3月の議会で申し上げましたように、早い時期に、交流を進める組織づくりを行い、広く、町をあげた交流を進めたいと考えておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

これ以外にもまだまだ多くの仕事がありますが、時間の関係で割愛いたしますが、私は、様々な仕事を行なっていた中で、もっともっと笑顔あふれる元気なふるさとにしたいと思っています。

そのため、今日は、皆さんに次の言葉を贈りたいと思います。それは「積小為大(せきしょういだい)」という言葉であります。「何か大きなことをしたいと思うなら、小さなことをおろそかにしてはいけない。小さな努力を積み重ねることが大きな成果につながる。」という、小学校の校庭に薪を背負ってたたずんでいたあの二宮金次郎さんが、モットーとしてとても大切にしていた言葉であります。新年度が始まり、これがやりたい! あれも成し遂げるんだ! こんな夢を叶えたい! と大きな希望をもってスタートされた方も多いと思います。もちろん、そうした夢や希望を語ることや志を表明することはとっても良いことだと思います。でも、成し遂げるためには、一步一步その夢や目標に向かって進んでいかなければなりません。もちろん、「努力」したからと云ってすぐに結果がでるものではありません。でも、よく云われるのが「1%の積み重ね」ということでもあります。例えば、100 円に対して毎日 1%の利息がついたとしたら、半年では 500 円くらいにしかありませんが、そこから急激に増えていき 1 年後には 3,700 円になるのです。成果がでないときであっても、進化することを止めないで、毎日、昨日よりも 1%でも改善しようと



行動することで、1年後には37倍という大きな成長につながっていく。これはお金を増やすことだけではなく、日々の仕事、あるいは人生にも応用できることであります。「千里の道も一歩から」と云われますように、どうぞ、はじめの一歩を踏み出してください。「努力は人を裏切らない」とも云われます。「努力する」とは苦勞は伴うけれども、人は努力する自分を鼓舞することで、努力が習慣になり、習慣が継続になり、継続が力になっていくのであります。「継続は力なり」の所以であります。

努力することで、考え方や精神が強くなるなど、幾重にも有益になっていきます。決して成功本位が一番とは言いませんが「積小為大(せきしょういだい)、そして努力は人を裏切らない」…あらためて、この言葉を心に置いていただきたいと思えます。

結びになりますが、私たちは、先人から受け継がれてきた、この美しい礼文島の自然、文化、産業、歴史伝統など、この素晴らしい礼文島の宝ものを活用し、挑戦し続けることによって、誇りある礼文町をより住みやすい良いまちにして、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

私たちの周りには、職員不足など、まだまだ多くの課題や様々な困難もありますが、「地域の絆」「地域の結びつきと支え合いによる島のさらなる発展をめざして」ぜひ、皆さんには私と一緒に「元気な礼文づくり」に努力していただきたいと、心からお願いを申し上げまして令和6年度始まりの訓示といたします。

今年も皆さんと一緒に頑張ります！ よろしくお願ひいたします。